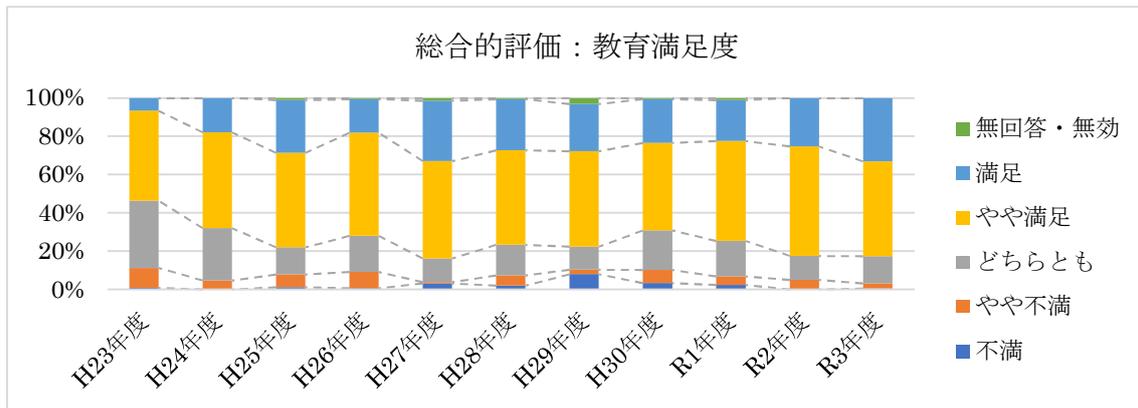


令和3年度卒業論文提出時調査結果概要

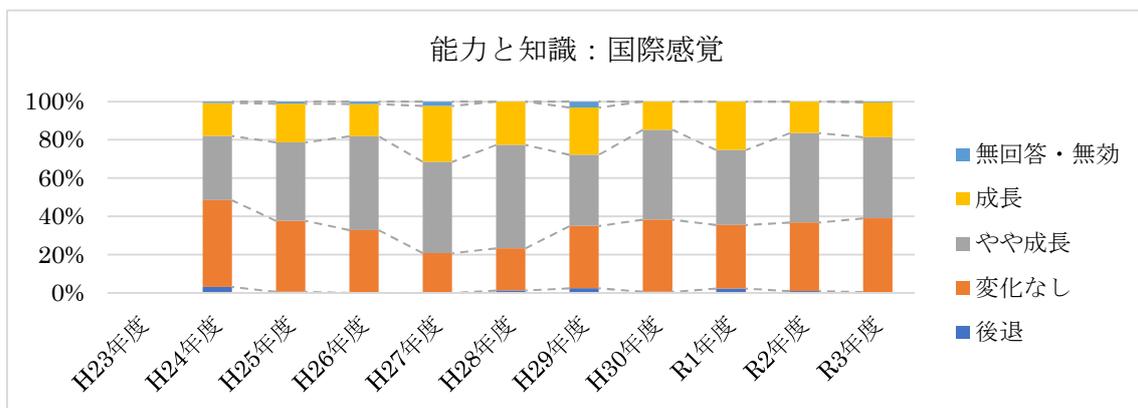
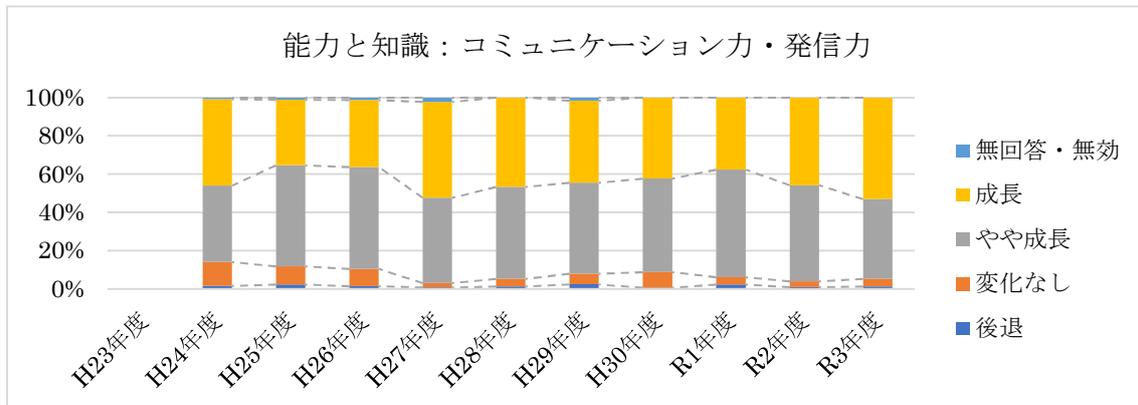
公益学部では、卒業論文を提出する4年次を対象にアンケートを実施し、学生の成長実感や満足度等について、過年度との比較を行っている。

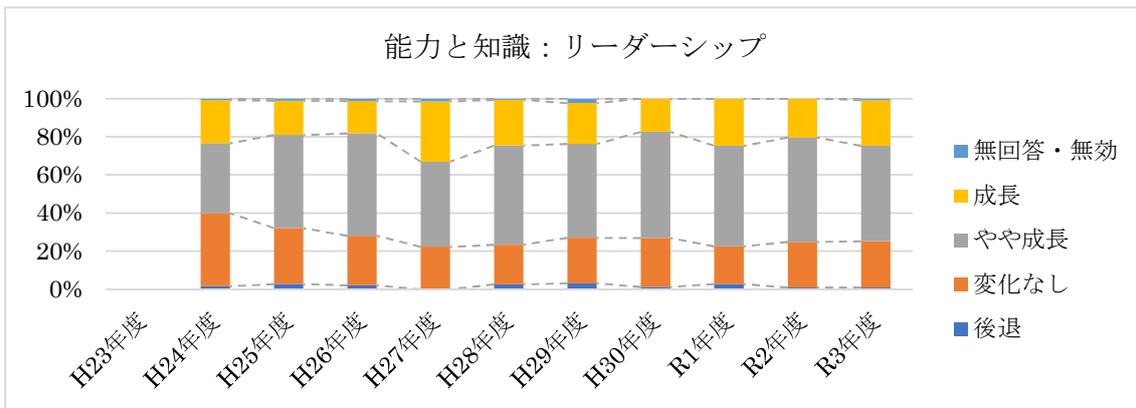
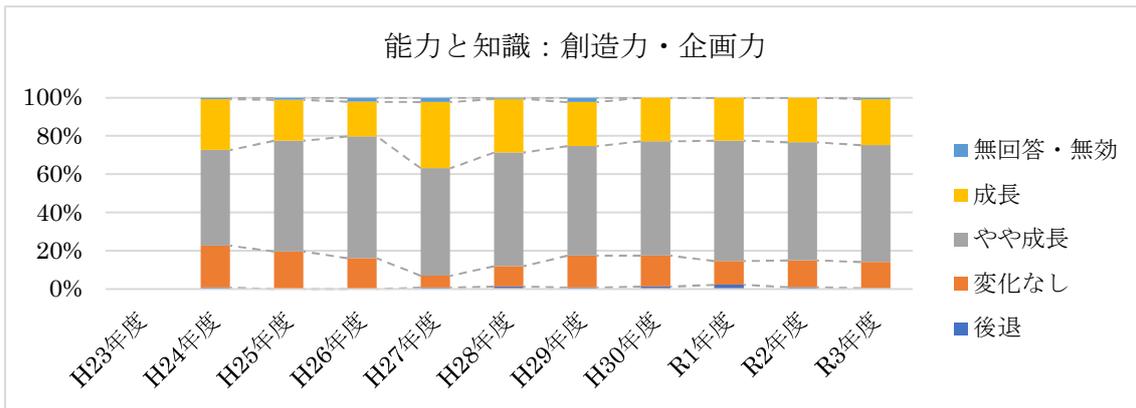
令和3年度（令和4年1月回収）は回収率100%（226名）であった。

以下、重要な項目について分析結果を記す。

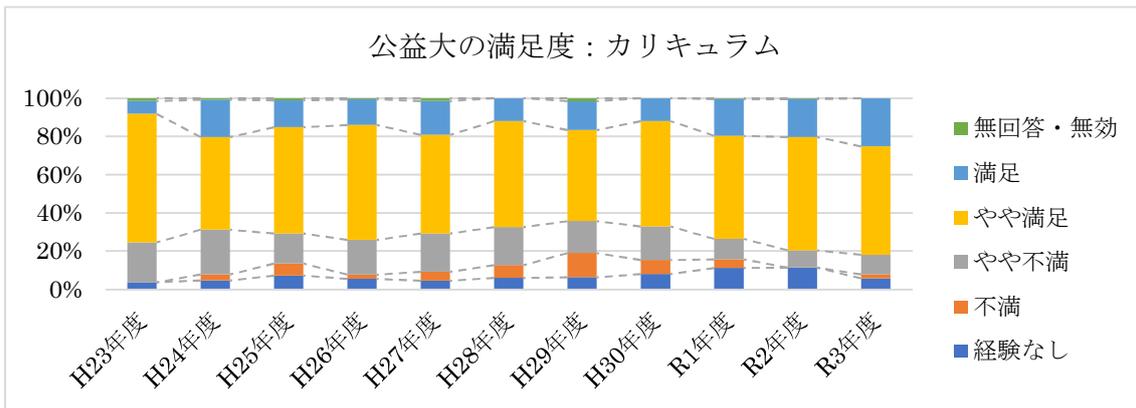


「満足」「やや満足」の合計は82.7%とほぼ前年度並みだったが、うち「満足」の割合が前年度の25.4%から33.2%へと7.8%増加した。この学年は3年次から2年間にわたってコロナ禍の影響を被ったが、それに対する大学の対応も含め、教育の質の改善をさらに進めることができたものと評価できる。





「コミュニケーション力・発信力」「国際感覚」「創造力・企画力」「リーダーシップ」の「4つの力」について、「成長」「やや成長」と回答した割合はいずれもほぼ前年度と同じであったが、「コミュニケーション力・発信力」について、「成長」の割合が前年度からさらに7.3%増加し、半数以上の学生が「成長」と回答していることは評価できる。



「満足」「やや満足」の割合が81.9%と8割を超え、過去11年間で最大になった。平成26年度入学生から導入された新しいカリキュラムが学生に受け入れられていることを示しているだけでなく、それ以前のカリキュラムと比較しても満足度が高いということは、不断のカリキュラム改革の成果が認められた結果であると評価できる。